

まえがき

いろんな人がいて、いろんな言葉があって、いろんな文化がある。だから、おもしろい。

本書を手にした皆さんは、どのようにドイツ語にたどり着いたのでしょうか。大学に入ったらドイツ語を勉強しようと思っていた人、大学に入ってみたらドイツ語の授業があった人、もしかしたら一度挫折して再チャレンジの人、また、大学以外の場で本書を手にしていて人もいらっしゃると思います。さまざまな学習動機を持ったさまざまなレベルの学習者が、それぞれの形で、無理なくドイツ語学習に取り組めるようサポートする——これがこの本の基本的なコンセプトになっています。

本書は、「読む・書く・聞く・話す」という4技能のバランスを配慮したドイツ語の総合教科書です。12課で12の文法項目を学ぶというコンパクトな構成になっていますが、初めに学ぶべき内容は一つ一つ省略せずに取り上げました。今後専門的にドイツ語を学びたいという人も、十分ここからスタートできる構成になっています。

一方で、外国語学習に苦手意識を持っている人たちがいることも私たちは知っています。とりわけそのような学習者のために、本書にはさまざまな工夫がちりばめられています。

- **メイン・ダイアログ**では、身近で飾らない日常のシーンを再現。聞く練習、話す練習に集中できるよう、初めから単語の意味や日本語訳を提示しています。
- **文法**は、常にダイアログと連動。言語運用に即した実際的な構成になっています。自宅でも学習できるよう、しっかりと解説を加えました。
- 運用能力の定着を目指す**練習**は、同じ単語や類似の言い回しが、少しずつパターンを変えながら繰り返し出てくるよう作られています。
- 練習の途中には、息抜きの**文化コーナー**。学習項目外という位置づけで、ドイツ語のテキストも入っています。CDには音声も収録されていますので、視覚と聴覚の両面から未知の言語を楽しんでください。
- 巻末の**動詞変化表**には、メイン・ダイアログに出てくるすべての動詞とその他の箇所から重要な動詞を選んで掲載。例文とともに紹介しています。

新しい外国語を学び始めるというのは、なんだか心躍るような体験です。まだ自分の知らない世界が待っている——それは新しい人との出会いであったり、新しい文化との出会いであったり。まずは、本書の登場人物であるハンナ、ティーロ、そしてナオキとの出会いが待っています。自分がなぜドイツ語にたどり着いたのかよく分からない人も、その意義については、これからゆっくり見つけていくことにしませんか。

この度の改訂では、初版に引き続き三修社編集部の菊池暁さん、校正段階では清水邦子さんにお世話になりました。また佐藤睦美さんには、本書の各所にイラストを添えていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

著者

正書法について

ドイツでは、1998年8月より、学校教育を中心に新しい正書法（つづり方のルール）が導入されました。実際に影響を受けるのは一部の語です。この新規則については問題も多く、その後何度か改訂が繰り返されました。現行では2006年8月に施行されたものが最新版です。広く教育現場で用いられている点を考慮し、本書もこの「**新正書法**」を採用しています。しかしながら、未永くドイツ語を学んでいく場合、両正書法についての知識があった方がよいとの判断から、従来の正書法も「**旧正書法**」として併記しました。